

かがやけヤマブキ!



第3学年 学年だより 2月号

子供たちの豊かな表現力



立春間近ながら、まだまだ寒い日が続く今日この頃です。

子供たちは、寒さにも負けず、毎日意欲的に学習に取り組んでいます。今、理科では「じしゃくをしらべよう」の学習を行っています。先週、二つの磁石の同じ極どうし、違う極どうしを近づけるとどうなるかという実験を行い、その結果がどうなったかについてを話し合いました。同じ極どうしを近づけたときについて、Aさんが「くっつかなかったんだけど、何ていうか…」というところまで話して口ごもっていました。ただ、「くっつかなかった」だけではなく、そこにはどう表現したらいいかが分からない何かがあるようでした。私は、「自分が見た通りに、感じた通りに話してごらん」と声をかけました。すると、次々にいろいろな表現が出てきました。

同じ極どうしを近づけるとどうなった？

- ・遠ざかっていった。
- ・はね返されたみたい。
- ・くるっと回って反対の極とつながった。
- ・無理につなげようとしてもずれた。
- ・間に透明な何かがあるみたいだ。
- ・間に人がいて力で押さえているみたい。
- ・間の何かがぺちゃんこになりたくないみたい。



違う極どうしを近づけるとどうなった？

- ・すぐに引きつられた。
- ・シュッとついた。
- ・磁石に釘やクリップを近づけたときより（シュッとつくのが）速かった。
- ・間に釘やクリップがあっても引きつけられた。
- ・磁石の方から近づいて行った。
- ・自分の意志で動いているみたい。
- ・磁石が生きているみたい。



最終的に教科書では用語として「退け合う」「引きつけ合う」という言葉を学習しますが、では、「退け合う」「引きつけ合う」とはどんな風になることなのか、目の前で起きた現象を、まずは自分が見たとおりに、感じたとおりに自分の知っている言葉で表現してこそ「退け合う」「引きつけ合う」が単に「くっつかない」「くっつく」とは違うということを実感し、「なるほど、これが『退け合う』という感覚か」「こうなることが『引きつけ合う』ということか」と、新しい言葉とつながって考えることができるようになるのではないかと思います。この話し合いをしたとき、発言をした子供たちは、みんな生き生きとして、とても輝いた表情をしていました。今後も、実感を伴い、子供たちが学ぶ喜びを感じられる学習を進めていきたいと改めて思いました。



工場見学（コーセル立山工場）



工場の広さ、作業の正確さ、1日当たりの生産台数の多さなど、驚くことばかりでした。

組み立て工場では、人がパーツを組み立てていました。私は何でだろう、機械ですればいいのにとっていると、機械では細かい作業ができないと説明されて、工場では機械だけではなく、人の手も必要だということが分かりました。

A. H



コーセルの工場の中は、すごい数の機械があって細かい作業を何度もくり返していました。倉庫の方に行ってみると、材料もとてもすごい数で、びっくりしました。材料を運ぶためのエレベーターは、とても大きかったです。

S. F



クラブ活動見学



4年生から始まるクラブ活動。どのクラブもそれぞれに興味深く、どれにするか迷いそうです。

どのクラブの活動も、おもしろそうでした。特に私は、ハンドメイドクラブがおもしろそうだなと思いました。家庭科のように、針と糸を使っていたし、自分で何かを作っている様子がとても楽しそうに見えました。

H. A



私はゲートボールがどういうものかよく分かりませんでした。でも、見学をしてみると、長いスティックでボールをゴルフのように打っているのを見て、「こんなルールだったんだな」と思いました。

M. K

